

すくすく

たけのこキッズ 第10号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：0724-21-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

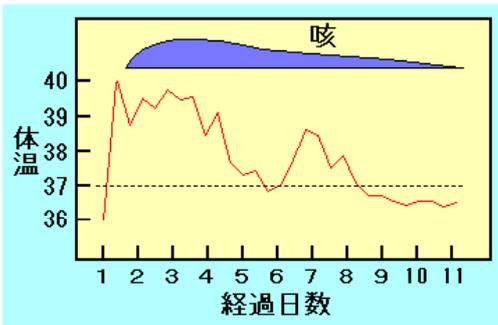
平成17年 2月10日発行

インフルエンザについて

ついに2月7日インフルエンザの患者さんが来院されました。しかも、ぼつぼつと患者さんが来院するのでなく、葛城保育所を中心に一気に流行状態となりました。まだ身近に流行がない場合はワクチン接種を考えても良いですが、今さらという感じが強いです。今となっては予防の基本は手洗いやうがいなどです。空気の乾燥を防ぐため、加湿器の使用も有効です。

インフルエンザの経過

インフルエンザの自然経過（薬などを使わない場合の症状の変化）で知っておきたいことを2つ示します。まずは熱の出方です。最初急に高熱が出ますが、これが3～4日続いた後で一旦解熱、しかし、もう一度1日ほど熱が出るというものです。もう一つは咳のパターンです。



咳は発熱した初日には大したことはなく、熱の勢いがちよっと低下してきた時期にひどくなります。この咳はしつこく続く

傾向があります。このパターンからはずれるものではなく、特に肺炎・気管支炎・中耳炎を初めとした合併症の存在を疑います。また、あらかじめこのようなパターンを知っていれば、過度に心配したりすることや、逆に発熱5日目あたりで熱が下がって早速風呂に入れて、翌日また熱が出て大騒ぎというようなことは無くなるのではないかと思います。

ここ数年は抗インフルエンザ薬のタミフルなどが投与されるようになり、上のような経過を取ることは少なくなっています。インフルエンザの症状も人によって程度は様々で投与の必要がない症例もありますが、ぐったりとしている症例でも実際に処方すると翌日から翌々日には解熱して楽になります。ただし、現在流行しているB型インフルエンザではA型インフルエンザに比べて効果がやや落ちるということも知られていますので、効果に対して過度の期待はしない方がいいかもしれません。



貝塚市休日急患診療所出務

今月は川崎の出務日があります。

2月20日（日）午前10～12時、午後1～4時

迅速検査の意義と限界

数年前よりインフルエンザの診断の際に迅速検査キットという検査試薬が使われるようになってきました。鼻汁などを材料にしてインフルエンザウィルスの存在を10～20分程度で確認できるというすぐれものです。インフルエンザとして治療していくのか、他の病気を考えるのか判断するデータが速やかに得られますので、インフルエンザの診療にとって画期的なことです。しかし、どんなものも完璧とは言えません。発熱した直後、あるいは鼻汁の取り方が悪い場合では反応が陰性に出ることも結構あります。したがってこの迅速検査の結果はやはり診断の参考にとどめるべきと考えています。すなわちたとえ迅速検査が陰性でも、のどの診察所見や症状、クラスや兄弟などの罹患状況、地域での流行状況なども勘案してインフルエンザだと判断されれば、抗インフルエンザ薬の投与がされることであって良いという考えです。また以前病院に勤務していた頃にインフルエンザで学校を休むとき、「迅速検査が陽性でない学校が出席停止扱いにしてくれないので」と検査を希望される方もありました。これは学校側の対応に問題ありですね。（写真はインフルエンザ迅速検査キットのプレートです。かんで出した鼻汁あるいは鼻の中に綿棒を入れてとった鼻汁をもとに検査しています。ともにBのところラインが見られ、B型インフルエンザのウィルスがいることを示しています。ウィルス量の差により濃さが違います。）



（写真はインフルエンザ迅速検査キットのプレートです。かんで出した鼻汁あるいは鼻の中に綿棒を入れてとった鼻汁をもとに検査しています。ともにBのところラインが見られ、B型インフルエンザのウィルスがいることを示しています。ウィルス量の差により濃さが違います。）

ゆかわクリニックご開業

2月1日付で水間の中野医院さんの後を引き継いで、湯川先生が開業されました。医師会の会合などで話をする機会もありますが、穏やかに話しされる方という印象です。内科全般がご専門ですが、特に糖尿病や甲状腺疾患などがお詳しいと聞いています。当院でも子どもの病気をもらったというような場合に大人の方を診ることがありますが、ゆかわクリニックでも逆の場合に子どもさんを診ている場合があります。それはそれで良いのですが、慢性的な病気（大人の高血圧、糖尿病など、あるいは子どもの喘息、アレルギーなど）はそれぞれ内科、小児科の専門にかかっていたら（使い分け）のが良いのではないのでしょうか。今後、両院で連携して地域医療に貢献できればと思います。

